

第3回文京区協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部 要点記録

日 時：平成25年12月9日（月） 午前9時15分～12時00分

場 所：2103・2104 会議室

<会議次第>

- 1 開会
- 2 プロジェクトの選考方法について
- 3 プレゼンテーション及び質疑について
- 4 プロジェクトの選考について
- 5 その他
- 6 閉会

<出席者（名簿順）>

田中 芳夫 本部長（区民部長）、安藤 哲也 本部員、井上 英之 本部員、各務 茂夫 本部員、菊地 端夫 本部員、丁 寧 本部員、石嶋 大介 本部員（区民課長）、境野 詩峰 本部員（協働推進担当課長）

【関係課】

有賀 俊 経済課主任主事、山崎 克己 アカデミー推進課長、工藤 真紀 観光・国際担当課長、須藤 直子 高齢福祉課長、小池 陽子 介護保険課長、木幡 光伸 児童青少年課長、鈴木 秀洋 男女協働・子ども家庭支援センター担当課長、椎名 裕治 庶務課長

【事務局等】 区民課主査（1）、区民課主任主事（1）、パートナー事業者（株式会社エンパブリック）（2）

<欠席者>

なし

<議 論（要点）>

1 開会

田中区民部長：開会あいさつ

境野協働推進担当課長：出席状況と資料について確認。米国滞在中の井上本部員はスカイプによる参加。本日の第3回本部は、第2次選考であるプロジェクト選考会を兼ねているため、各選考対象のプロジェクトの関係課も参加している。

2 プロジェクトの選考方法について

境野協働推進担当課長：資料第13号に基づき登録プロジェクト及び選考方法について説明。選考に関しては、6団体の応募があり、識見者本部員による第一次選考を経て、このうちの4団体が今回プレゼンテーションを行う。また、7月の選考会で支援が決まったNPO法人街ing本郷の文人郷プロジェクトについて、第2クールに支援を行うかどうかの継続の審査も行う。1団体あたりプレゼンテーション10分と質疑応答10分とし、合わせて20分を予定している。

3 プレゼンテーション及び質疑について

《新規》

<プレゼンテーション1>

プロジェクト名：地域密着型介護・保育プロジェクト

団体：株式会社ツリー・アンド・ツリー

<質疑>

各務本部長：どのくらいの人々がこのプロジェクトに関わってくると想定をしているか。

プレゼン団体：介護で10名以内、学童で10名以内を第2クール終了後のゴールとして設定している。数名ずつを想定した場合、必要な広さが少なくとも50平米以上なので、2階建ての一戸建て程のスペースで対応できると考えている。まずは、1施設を運営させることを目標に人数の規模を設定した。

菊地本部長：夏休みや冬休みなどピークタイムが重なる時間についてはどうするのか。

また、それぞれの事業の競合者もいると思うが、学童を受ける側のメリットだけでなく、介護を受ける側のメリットについては、どう考えているか。

プレゼン団体：夏休み、冬休み、春休みについては難しいものがあるとは考えているが、例えば午前中の時間は宿題をしたり、公園に行くなどして時間を過ごし、交流の時間は午後を持っていくことを想定している。介護ビジネスの差別化という点に関しては、レクリエーションをもっと自分の生きがいを感じられるものにする事で差別化をしたい。

井上本部長：アイデアを実行していく上で、現状で足りていること、足りていないこと、その上で何からどのように始めていくのか教えてほしい。それから、林さんの自己紹介を聞かせて欲しい。

プレゼン団体：進捗については現状では施設が確保できていない状況である。それを踏まえてボランティアという形を取り、子どもを連れて、週に一度介護施設に行き交流の場を実践してみる。また、自分も学童保育の利用者なので、レクリエーションのあり方を考えてみるなど、今はまだビジネスではなく、ボランティアの形で試行の取り組みを続けている。実現に向けてのボトルネックはお金・人などあると思うが、お金に関しては資金調達の方法は考えているため、あまり心配はしていない。それよりも、地域の方々の共感を得ていくこと、地元の人たちと繋がっていくことが一番の課題だと感じている。また、この取り組みは高齢者、子育て、青少年、防犯など区の施策にも幅広く関わってくるので、行政関係者と相談しながら進めていきたいと考えている。私の自己紹介について、直近ではグローバル企業のM&Aのコンサルティングをしていた。ホテルの運営や介護施設の経営、金融不動産の専門的な知識と実績もある。この事業をビジネスとして捉え、ボランティアではなく、価値の分の対価を得て、大きく展開していくことで持続可能な事業としたい。

安藤本部長：利用料のイメージがあれば伺いたい。

プレゼン団体：事業計画でキャッシュフローはすでに考えている。介護事業については、介護保険適用になる。学童については、ベーシックな5時までの預かりで月5,000円、夜は、1時間ごとのオプションにしていく。今民間でも様々なオプションがついた学童保育があるが、月40,000円を超えるものが多い。仕事復帰したい、パートで働きだすと

いった方にとっては、負担が大きいものになっている。これも地域課題の1つとしてなるべくリーズナブルな価格でやりたい。目標は1万円。

丁本部員：利用者の申込みが殺到した場合の対応はどう考えているか。

プレゼン団体：保護者の理解と共感が必要なので、面接での対応を考えている。

<プレゼンテーション2>

プロジェクト名：ハッピーファミリープロジェクト

団体：子育てkitchen

<質疑>

菊地本部員：この事業を展開していく際に、具体的にどのような障害・課題があり、どのような支援が必要か。

プレゼン団体：一番困っているのは集客であり、その人たちに届くにはどうすれば良いかが課題である。自分で行動できる人は、自分で解決もできるので問題はないが、家から出られない人にどのようにすれば届くのか、支援を受けながら一緒に考えていきたい。

安藤本部員：父子家庭を含め、父親が育児を行っている家庭の受け入れをどのように考えているか。

プレゼン団体：自分が共感でき、思いが強かったのが母親に対してであったため、母親から始めたが、将来的には、男性も受け入れていきたいと考えている。

井上本部員：具体的な活動として、料理教室をやってみて見えてきたことは何か。大事にしている人は誰でその人たちがどんなプロセスでどんな変化が起きたのか。このまま続けるとさらに何が起きそうなのか。事業として進めていく上での課題や手応えを含めて教えてほしい。最終的なお客様が誰で、何を最終的に求めて作ろうとしているのか、今見えていることをお願いしたい。

プレゼン団体：お母さんは子どもが生まれた時点で「お母さん」という見られ方をしています。育児書に書かれていることもあるが、どこまで子どもを見守ったらよいか、お母さんに知ってほしい。「こんなこともできる」とお母さんが気づけば、子どもも楽しい。最終的には、子どもの出来る力を伸ばし、その子どもが親になり、といい循環が生まれればと考えている。料理教室を行い、実感したことは、参加している方によって本当に常識が異なるということ。実際には、来た方やその時の状況に応じて対応している。

各務本部員：料理教室で得た子育てに関する共通項のような知識や経験の共有化・文書化などを行っているか。

プレゼン団体：将来的に本などの形でまとめられればと考えている。

丁本部員：縦の連携についてはどの年代までを想定しているか。

プレゼン団体：高齢者世代まで含めていいと考えている。ただ人によっては、自分たちの世代の感覚で判断して押し付ける人もいるので、そういう方以外であれば連携をし

ていきたい。

<プレゼンテーション3>

プロジェクト名：文の京囲碁交流サロンプロジェクト

団体：文京囲碁指導者連絡会

<質疑>

菊地本部員：囲碁をオンラインで楽しむ人もでてきている。対面を活かした囲碁を楽しむ強みについて教えてほしい。また、現状 150 万円の事業を 3 年度に 1,000 万円を目指すということだが、組織マネジメント上の能力構築も求められると思う。この点の準備状況、方針についても合わせてお願いしたい。

プレゼン団体：オンラインによる普及も進んでいるが、これを行っているのは、既に囲碁を習得した人たちである。我々が目指しているのは、文京区の囲碁人口、囲碁指導者の拡大である。世界ジュニア囲碁選手権の優勝者は我々の一期生である。このような組織を立ち上げて活動に取り組んでいるのは、全国的にもユニークであり、囲碁の普及には寄与してきたと考えている。事業拡大については、現在、会場や指導者の不足で希望者をお断りする状態になっている連続囲碁講座を拡大させていきたい。サロンについては、まず 1 か所を開設し、そのノウハウを持って 3 年間で 5 か所以上開設したいと考えている。

井上本部員：囲碁で成果を出すにあたって、現在の運営体制の中でどのような課題があり、どう克服していこうと考えているか。多様な人材、世代を巻き込んでいくことが重要だと思う。特にブランディングは、大事なポイントになると考えているので、その部分の考えを伺いたい。

プレゼン団体：一番力を入れているのは、子育てママの世代である。子育てママを 3 年間で 3 名教育して指導者としてメンバーになってもらった。初段まで 3 年のはかかるといことで育成は簡単ではないが、子育てママを育成し、ママによるサロンの運営を行い、ママに報酬を支払いたい。高齢者はそのバックアップに回することを考えている。若年層に対しては、区内の小学校にチラシを配布している。従来は 60 名程度で行い、増えてきてはいるが、このバックアップのためには文京区で囲碁大会を開催することが必要。品川区の事例では大きな大会へと成長している。この大会を立ち上げた指導者と親しくしているので、その方と共に実行委員会を立ち上げ、囲碁指導者連絡会でも大会を開催したい。

井上本部員：若者や女性を指導する際に巻き込んでいくコツは何か。

プレゼン団体：文京区には多くの大学があり、大学には囲碁部がある。高齢者よりも大学生の方が子ども達とのコミュニケーションがスムーズである。大学生は経済的な余裕がないため、時給を払えるようにしながらタイアップを進めていきたい。

<プレゼンテーション4>

プロジェクト名：文京映画交流クラブ

団体：文京映画交流クラブ立ち上げチーム

<質疑>

菊地本部員：文京区で行うにあたり、文京区にゆかりのある映画について伺いたい。また、ターゲットとして、高齢者、子育て世代、小中高生が挙げられたが、最もターゲットとしているところはどこか。

プレゼン団体：一番のターゲットは、一人暮らしの高齢者。文京区にゆかりのある映画はたくさんあるが、例えば「にぎりえ」がそうである。本郷から湯島を舞台にして、樋口一葉原作の映画。ぜひやってみたいと思っている。

各務本部員：若い人との世代間の交流、つながりを生み出すにあたり、映画の選定方法にも工夫が必要と思うが、その点の考え方をお示しいただきたい。

プレゼン団体：9月から11月の試運転の際にアンケートをとった。具体的な上映作品のリクエストもあったが、文京区のアカデミーにもない映画もある。今後は、DVDを借りて上映をするが、著作権の課題もあるので、会員制をとってやっていきたい。また、これから、出前の映画会も行っていくが、映画の選定に必ず事前にアンケート調査を行う予定である。

安藤本部員：映画も現在はオンラインで見ることができるが、あえて映画会を開催することの意義、プラスアルファの企画など、会の工夫について伺いたい。

プレゼン団体：映画会の目的は、参加者同士の交流と対話である。これまでの3回の映画会で映画解説をプロにお願いしたが、解説が長く、アンケートでは「もっとおしゃべりがしたい」という回答が多く出てきた。今後は、テーブルを用意し、ファシリテーターをつけるなどして話ができるような運営をしていきたい。また、参加者同士がグループを作って活動を始めていくことも期待している。

《継続》

<プレゼンテーション5>

プロジェクト名：地域ブランド「文人郷（ぶんじんきょう）」構築による地域連携事業

団体：特定非営利活動法人 街ing本郷

<質疑>

菊地本部員：企画を行う場の提供に関しては、企画のオーナーシップが重要である、誰が決めて、誰の成果とするのか、考えを聞かせてほしい。

プレゼン団体：どの企画を行うかの決定も含め組織の意思決定に関しては法人の理事会で決定することになっており、企画の責任については、最終的に街ing本郷に帰属する。現在、企画は5つ生まれしており、理事会で実施については決めることになるが、2、3月には実施が可能ではないかと思う。

井上本部員：ポジショニングもはっきりしてきて、大きく進んできた印象を受けた。実際に会員になっている人がどんな人か、これから会員になる人が何を求めて会員にな

るのか教えてほしい。また、このモデルを使い、会員を獲得することにより、どんな未来、何を成し遂げるのか教えてほしい。紹介としてだが、同じようなモデルで ReadyFor とミラツクが組み、対話の技術を使って具体的な 1 個のプロジェクトをつくり、必要な資金を調達するためのパッケージをワークショップで行っている。例えば、ReadyFor を利用するということもあり得ると考える。

プレゼン団体：会員のターゲットは、文人が好き、本郷が好きな人をメインターゲットとしている。ただし、ステークホルダーミーティングで、文人が好きなマニアな方は運営側に回りにくいということが分かった。運営については、20代～40代をターゲットにしている。現状では、運営体制が 2 名と脆弱なため、仲間を増やし、会員制度を作ることににより認知促進を図り、体制を強固にしていきたいと考えている。

井上本部長：会員の方のイメージをもっと具体的に知りたい。

プレゼン団体：例えば、保険会社に勤めている 30 代の女性がいる。仕事以外の時間を自分の住んでいる場所に費やしたい人。ファイナンシャル・プランナーのスキルを活かしたいという方がいる。5 名は会員になってくれると思う。

4 プロジェクトの選考について

選考委員の合議により、子育て kitchen 及び文京映画交流クラブ立ち上げチームの 2 団体を「継続力向上」の区分で、街 ing 本郷を継続して「継続力向上」の区分で支援することを決定した。

5 その他

境野協働推進担当課長：結果は、明日までに各団体へ伝える。

田中区民部長：第 4 回本部は 3 月 28 日（金）開催。朝から 15 時頃までをご予定いただきたい。

6 閉会

以上